



第 **5** 期 事業報告書
BUSINESS REPORT
平成17年4月1日～平成18年3月31日

MOTHER FOOD
SHIDAX 



目次

株主の皆様へ	1
連結決算のポイント	2
連結データハイライト	3
部門別の報告	4
クローズアップ	6
連結財務諸表	10
単体財務諸表	12
会社情報	13

■ 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平成17年4月1日から平成18年3月31日に至る当社グループの第5期事業報告書をお届けするにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

当社グループは、マザーフードの概念をベースに健康で快適な生活を願う人々の声、豊かさの価値を求める社会のニーズに対し、食を通じ高い品質のサービスを提供し、「健康を創る」を経営理念としております。その理念の基、安心・安全を第一に、品質の高い食材を一括仕入れすることによるクオリティー管理をしております。また、給食事業およびレストランカラオケ事業のリーディングカンパニーとして、それぞれのお客様のニーズにお応えするための専門性を常に追求しております。

また、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要課題の一つとして位置付けており、競争力および企業体質の強化を図るための内部留保に努めるとともに、収益の状況に対応した配当を行うことを基本方針としております。

以上の考え方を踏まえ、平成18年3月期の1株当たり年間配当金は、1,500円とさせていただきます。

今後も経営の基本理念を徹底させながら、激しく変化する経営環境を迅速にとらえ、持ちうる経営資源を最適に配置することでグループ企業価値の向上を目指していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年6月

代表取締役社長
志太 勤一



■ 連結決算のポイント

決算概況

当期のわが国経済は、原油など素材価格の高騰で一部不安要素は残すものの、大手企業を中心とする収益改善や設備投資の増加など、景気回復の兆しが現れ、雇用情勢は好転し、個人消費も穏やかな回復基調で推移しました。このような状況のもと、フードサービス業界は厳しさを残す面もありますが、当社ではグループ経営の効率向上を目的として、経営戦略を策定し、重要な経営資源である人材、ノウハウ、資金、情報の最適配分を行い、事業子会社に対し適切な経営指導を行ってまいりました。

当期においては、当社グループの事業優位である「水平・垂直統合型」グループ構造の基盤整備を完成することができました。主な成果としては、当社グループの食材購買事業において、標準メニューの作成システムとメニューに連動する統一食材の調達の仕事が進捗したことで、食材原価の低減が一段と可能になりました。また、当社グループの各事業子会社に分散していた共通機能を集約し、グループ一元化の体制を整備することができました。

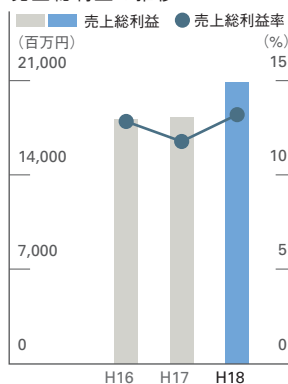
垂直統合の進展による利益率の向上

当社グループは、「水平・垂直統合型」事業展開を進め、当期はその基盤整備を完成することができました。食材購買事業で、全国に41箇所の拠点を設置し全国をカバーする物流網を完成させたことで、当社グループの店舗・事業所への統一食材の導入が進みました。食材原価の低減と同時に、店舗運営においては、本部主導による運営管理と指導の強化が店舗収益の改善につながり、売上総利益は2,562百万円増加（前期比14.0%増）となりました。また、グループ一元化の体制を整備し、販売促進企画などの共通機能を集約しました。専門ノウハウの相互活用が可能となったことで、生産性および運営能力が向上しました。これにより、間接費を削減することができ、販売費及び一般管理費は432百万円減少（前期比2.9%減）しました。

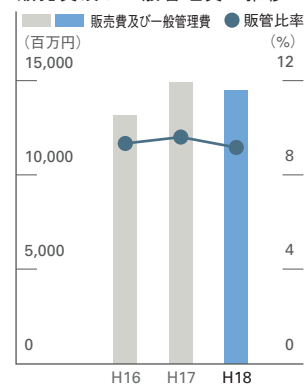
財務面においては、固定資産の減損会計に係る会計基準を適用し2,637百万円の減損損失を計上いたしました。一方、店舗保証金の返還請求権の流動化および店舗設備のセールアンドリースバック取引で7,081百万円の資金調達を行い、借入金・社債が前期末と比較して6,118百万円減少いたしました。これらの施策により総資産を圧縮した結果、自己資本比率は34.5%と前期末と比較して2.5%改善し、財務体質の強化を図ることができました。

以上の結果、当期の連結売上高は157,950百万円（前期比1.7%増）となりました。連結営業利益は6,359百万円となりました。これは、売上総利益が2,562百万円増加（前期比14.0%増）、販売費及び一般管理費が432百万円減少（前期比2.9%減）したことによります。連結経常利益は6,022百万円（前期比112.0%増）、連結当期純利益は、減損損失2,637百万円が発生したものの607百万円（前期比375.9%増）となりました。

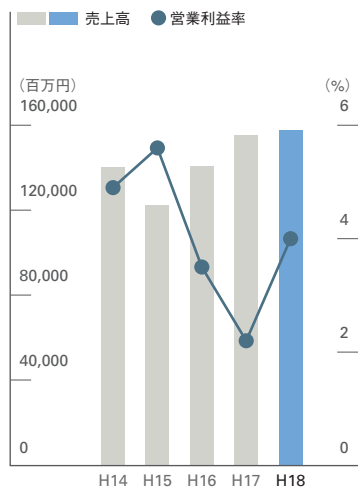
売上総利益の推移



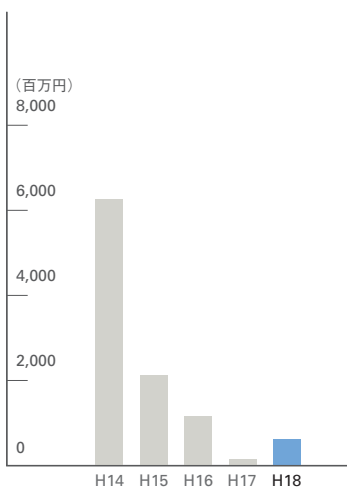
販売費及び一般管理費の推移



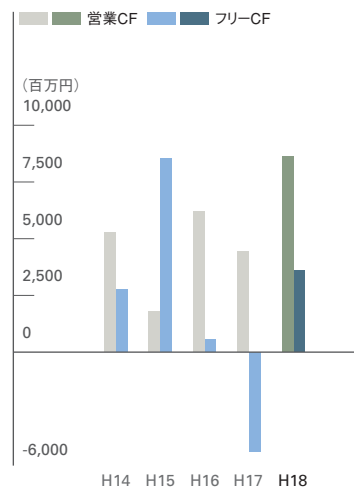
売上高／営業利益率



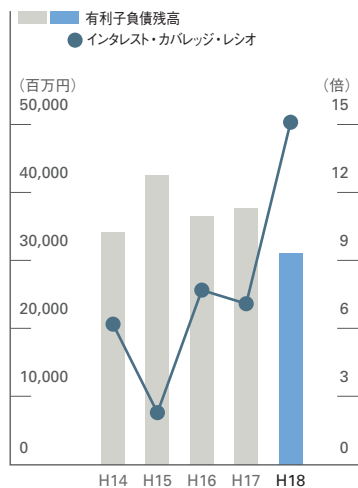
当期純利益



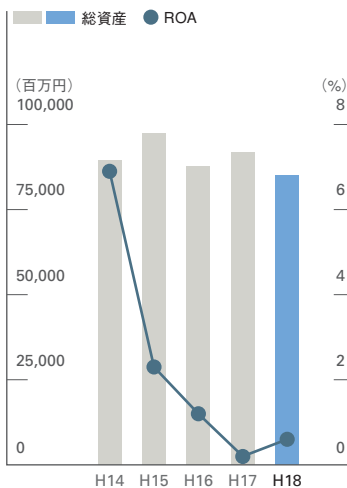
営業CF／フリーCF



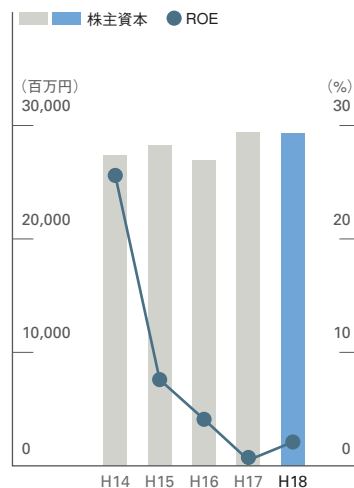
有利子負債残高／ インタレスト・カバレッジ・レシオ



総資産／ROA



株主資本／ROE



部門別の報告

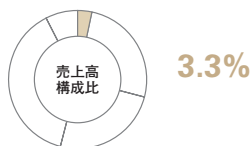
部門

売上高構成比

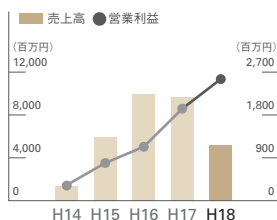
売上高・営業利益推移

プロフィール

エスロジックス事業

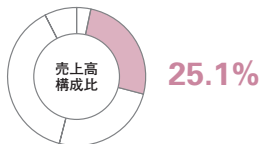


売上高 5,203百万円 (前期比46.0%減)
営業利益 2,553百万円 (前期比32.2%増)

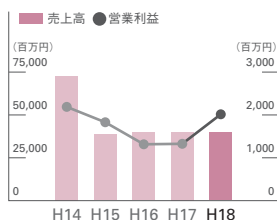


スケールメリットを生かした食材・消耗品の一括発注と、三温度帯での一括配送によりグループ内へ食材を提供しています。また、食材もトレーサビリティや品質管理を標準化し、安全性と信頼性の高さを確保しています。

コントラクトフードサービス事業



売上高 39,630百万円 (前期比0.4%減)
営業利益 2,010百万円 (前期比52.1%増)

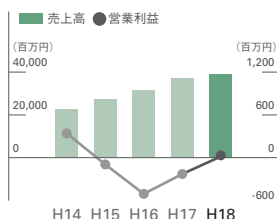


企業(オフィス、工場、保養施設)、学校、官庁の食堂などを中心に高品質の給食サービスを提供しています。また、シダックスレストランマネジメント(株)は外食レストランを本格展開し、シダックスデリカクリエイツ(株)はセントラルキッチンを利用した食事提供を行っています。

メディカルフードサービス事業



売上高 39,086百万円 (前期比6.0%増)
営業利益 18百万円 (前期比は227百万円の損失)

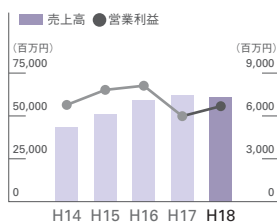


病院(患者食、職員食堂)をはじめ老人福祉施設、養護老人ホーム、ケアハウス、あるいは在宅高齢者の方々に栄養バランスだけでなく、“美味しさ”も楽しんでいただける高付加価値の食事サービスを追求しています。

レストランカラオケ事業

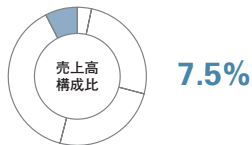


売上高 61,184百万円 (前期比1.4%減)
営業利益 6,683百万円 (前期比11.7%増)

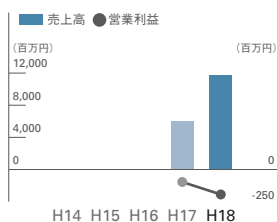


カラオケと食を融合したレストランカラオケを全国で展開しています。また、レストラン並みの食事サービスに加え、地域密着型のカルチャースクール、福祉活動支援、各種イベントなど町のコミュニティスペースとしてのサービスも提供しています。

コンビニエンス中食事業



売上高 11,815百万円
営業損失 214百万円 *前期は下期から連結



病院、企業、官公庁、大学・短期大学、オフィスビル等において食料品、日用品、衣料品、書籍・雑誌・新聞、医療衛生用品等を販売する売店の受託運営を行っています。

物流拠点を全国41箇所に設置し全国をカバーする食材購買の物流網を完成させたことで、当社グループの店舗・事業所への統一食材の調達と供給が進みました。また、消耗品の一元物流事業も拡大し規格を整理することにより、仕入原価の削減を進めました。なお、売上高については、当社グループ内の食材物流体制の整備を優先させることで、外販事業を一部売却したため減少しています。

お客様企業の喫食者様の健康管理などの付加価値提案や外食レストランを意識した運営提案など、お客様満足度の高いサービスを行い、営業拡大を推進しました。また、店舗運営においては、本部主導による運営管理と指導を強化し、不採算店舗の改善、喫食数向上などにより、店舗収益の改善を果たしました。

市場環境は、介護保険法の改正など厳しさを増していますが、同業他社との差別化を図る事業機会と捉え、積極的な営業を展開しました。地域における基幹病院や災害拠点病院などの大型総合病院を前期以上に受託し、老人保健福祉施設では施設開設の企画段階から関わり営業拡大に取り組みました。また、栄養士の店舗マネジャーへの登用を完了させ、お客様の満足度向上につなげました。

厳しい市場環境に対応すべく、マーケティング手法を積極的に取り入れました。携帯電話を活用した新会員システムを開始、ホリデーランチ導入などによる食の充実、お客様グッズの配布など販売促進の強化、お客様動向に応じた価格政策などを実施した結果、お客様単価は既存店前期比101.9%となりましたが、競合激化により、お客様来客数は既存店前期比92.7%となり、売上高の既存店前期比は94.5%となりました。

新規契約の獲得を強化するため、営業開発部門を大幅に増員し、情報収集力を高めたことで順調に新規契約を獲得しました。また、病院施設内の売店においては、床頭業者等と提携し、院内業務の総合受託に注力するなど、サービス力の向上に努めた結果、既存店の解約も前期に比べ減少しました。

エスロジックス事業

- エス・ロジックス株式会社
食材販売業務
- シダックスエンジニアリング株式会社
消耗品販売業務等

給食事業

- シダックスフードサービス株式会社
- シダックスレストランマネジメント株式会社
- シダックスフードサービス北海道株式会社
- シダックスデリカクリエイティブ株式会社
- エス・ミール株式会社
給食の受託運營業務等

レストランカラオケ事業

- シダックス・コミュニティー株式会社
レストランカラオケ業務等

コンビニエンス中食事業

- シダックスアイ株式会社
食料品、日用品、医療衛生用品等を販売する売店の受託運営

加速する「水平・垂直統合型」事業展開

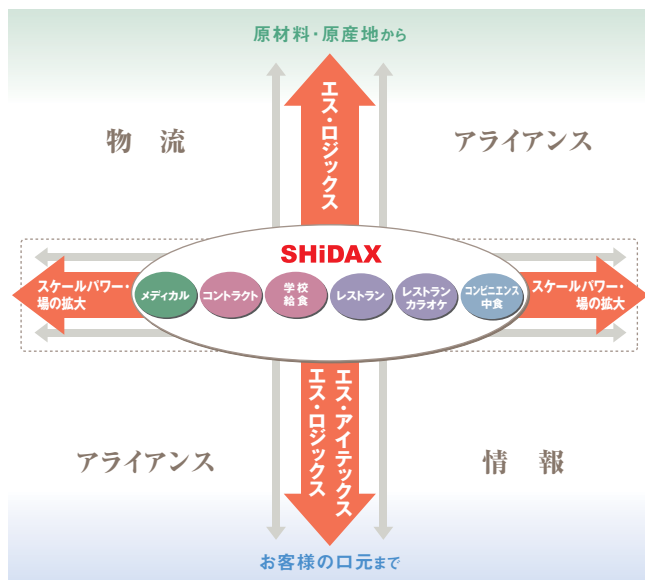
シダックスグループは、これまで「水平・垂直統合型」事業展開で事業領域の拡大と経営効率の向上を進めてきました。最近の進捗状況をご報告します。

垂直統合におけるエスロジックスの役割

－エスロジックス導入率の向上と食材費の削減－

エスロジックス事業の役割

エスロジックス事業は、「水平・垂直統合型」事業展開の「垂直」部分の役割を担っています。大量仕入れによるスケールメリットを生かした、グループ内への食材および消耗品の一括発注・配送をしています。さらに、食の「安心・安全」が必然として求められる社会ニーズに対応し、トレーサビリティや品質管理を順次標準化し、安全性・信頼性の高い食材提供を徹底しています。



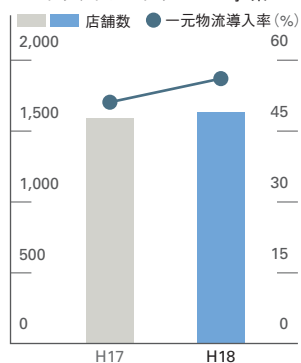
一元物流導入率の向上と食材費の削減

エスロジックス事業では、品目数の集約を目的とした食材の一元化と資材の一元化により調達コストの削減を進めてきました。まず食材の一元化については、安心・安全な食材を供給するため、全国41箇所に拠点を設け流通体制を強化しました。これにより、全国にまたがる事業用食材の一括発注とセントラルバイイングができるようになり、給食事業、レストランカラオケ事業、レストランマネジメント事業各店に安心・安全な食材を提供することが可能となりました。さらに、メディカルフードサービス事業の拡大に合わせて病院給食向け食材の開発を行い、企画提案力を強化してきました。この結果、食材の一元物流導入率はコントラクトフードサービス事業で56.1%（前期51.1%）、メディカルフードサービス事業で45.6%（前期41.8%）と向上し、一元物流による収益力の強化を図ることができました。また、資材の一元化については、給食事業および外食事業に使用する消耗品についてセントラルバイイングの形で規格を絞り込み、厨房設備の設計、販売に関しては一括発注システムを整備し、取扱高を増やししながら規格を統一することによる規模拡大で仕入コスト削減を進めました。

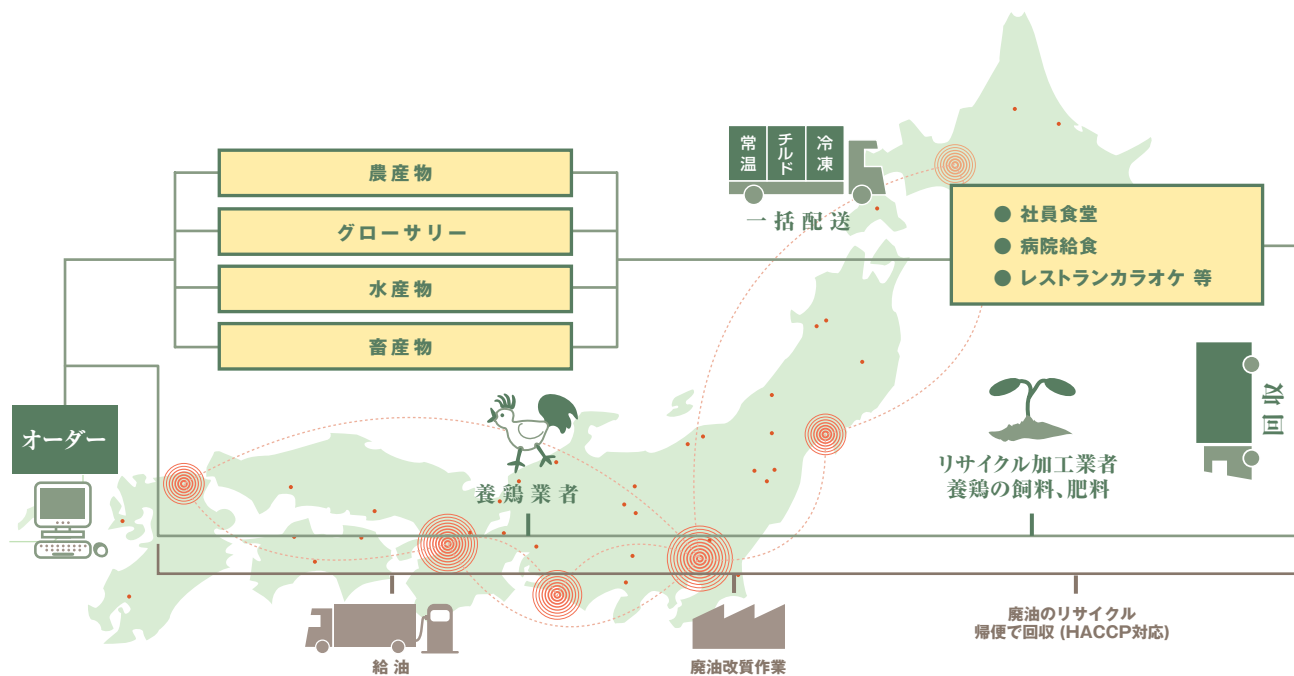
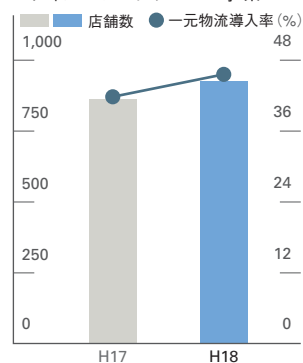
今後の事業戦略

今後はエスロジックス事業に、すべてのデータを集約し、メニューの標準化に伴う食材の統一、食材の一括購入により利益構造を強化していきます。また、店舗メンテナンス、内装工事などを請負うエンジニア・サプライ業務の「資材の一括購入」をあわせ、すべてのスケールメリットを追求します。同時に、社会問題解決型企業として環境に配慮した循環型社会形成のため、残食や調理時の食材ロスなどを適正に処理し、リサイクルすることを進めていきます。

コントラクトフードサービス事業



メディカルフードサービス事業



水平事業展開の進捗

—One to one マーケティングによるアプローチ—

レストランカラオケ事業において、お客様をダイレクトにお誘いするための手段として、携帯電話を活用した新会員システムサービスを平成17年7月16日から開始しました。募集開始後はバースデーメールやポイント2倍キャンペーンなどの実施の効果もあり、順調に会員数が伸びました。今後も携帯電話を活用したダイレクトマーケティングでさらなるお客様へのサービス向上を目指します。



Change SHIDAX (チェンジシダックス)

昨秋よりカラオケシダックスが変わりました。

キーワードは「exciting, simple, delicious」より楽しく歌える、より安心して利用できる、より美味しく食事ができるコミュニティースペースとしてお客様の目線に立ってサービスを行っています。

また、少子高齢化社会の到来などを背景として多様化するお客様のニーズを先取りし、今後も様々なサービスを企画提案していきます。年末年始の宴会シーズンにおいては青春帰帰キャンペーンを行い、団塊世代を中心にスマートシニアの方々に大変好評でした。

① QRコードを撮って
アクセスしよう!



QRコード

QRコード読みとり機能付きの携帯電話でのご利用となります。



② sc001@sdx.co.jpに
空メールを送信しよう!

※メールの受信/拒否設定をされている方は解除して下さい。(ドメイン指定解除)



—総合フードサービス企業への飛躍—

シダックスグループは、「水平・垂直統合型」事業展開を進めてきました。平成13年4月にシダックスフードサービス株式会社およびシダックス・コミュニティ株式会社の事業統合により、当社を設立いたしました。その後、平成13年9月にエス・ロジックス株式会社による食材購買の事業化、平成15年4月にシダックスレストランマネジメント株式会社による外食事業への本格参入、平成15年10月にシダックスデリカクリエイツ株式会社によるセントラルキッチン活用のノウハウを取得したほか、平成16年12月にはシダックスアイ株式会社においてコンビニエンス中食事業へ参入するなど、積極的なM&Aにより事業範囲を拡大してまいりました。このような水平事業展開は、当社グループが目指す日本で唯一の総合フードサービス企業へ向けた戦略であります。また、事業範囲を拡大するなかで、真心を込めた料理やサービスを提供する「マザーフード」の考え方を具現化することによって、『マザーフードのシダックス』というブランドイメージを高めてきました。安心・安全を徹底的に追求する高い志と強い意思を掲げ、食を通じてお客様が望む以上の感動をお届けする健康創造企業として、今後も、総合フードサービス企業としての事業展開とともに、ブランド戦略を合わせて進めてまいります。

水平事業展開の拡大

今般、スペシャリティレストランのブランドカテゴリ拡大のため、レストランホスピタリティLLCおよびアールエー/パティナLLCを子会社化する予定です。(平成18年5月現在) ニューヨークのロックフェラーセンター、ロサンゼルスの子ディズニーランド、ラスベガスの一流ホテルなど、米国西海岸、東海岸で50店舗のスペシャリティレストランを経営しているマルチブランドレストランチェーンの成長企業として、有名な企業であります。

米国では、健康志向のなかで日本食に対するニーズが強く、日本食と洋食との融合による新しいカテゴリも拡充しており、今後は相互のノウハウを共有し、シナジー効果を持つことで当社グループの付加価値向上を図ってまいります。

(※レストランホスピタリティLLCはアールエー/パティナLLCの純粋持株会社です。)



■ 連結財務諸表

◎連結貸借対照表

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
(資産の部)		
流動資産	33,129	27,061
現金及び預金	19,454	12,753
受取手形及び売掛金	9,130	9,276
たな卸資産	1,378	1,308
繰延税金資産	855	736
その他	2,373	3,052
貸倒引当金	△ 63	△ 65
固定資産	52,001	64,817
<有形固定資産>	30,237	40,760
建物及び構築物	26,860	36,491
土地	1,136	1,181
その他	2,240	3,087
<無形固定資産>	1,010	1,144
<投資その他の資産>	20,753	22,912
敷金及び保証金	11,501	11,950
繰延税金資産	2,501	3,516
その他	9,032	9,832
貸倒引当金	△ 2,280	△ 2,386
資産合計	85,131	91,878

■流動資産

営業活動の順調な推移と、固定資産等の売却により現金及び預金が前期末と比べて6,701百万円増加したことが主な要因となり、流動資産は前期末と比べて6,068百万円増加しました。

■固定資産

レストランカラオケ事業の出店抑制および店舗設備のセールアンドリースバック取引などにより有形固定資産が10,523百万円、店舗保証金の返還請求権の流動化などにより投資その他の資産が2,158百万円それぞれ減少したことにより、固定資産は前期末と比べて12,816百万円減少しました。

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
(負債の部)		
流動負債	33,660	35,277
支払手形及び買掛金	9,255	9,357
短期借入金	1,344	2,045
一年内返済予定の長期借入金	11,533	11,667
一年内償還予定の社債	75	—
未払金	3,111	3,910
未払法人税等	990	1,480
賞与引当金	1,669	1,672
その他	5,679	5,143
固定負債	21,752	26,891
社債	425	—
長期借入金	18,161	23,944
役員退職慰労引当金	508	499
連結調整勘定	1,568	1,583
繰延税金負債	506	517
その他	582	345
負債合計	55,412	62,168
(少数株主持分)		
少数株主持分	373	285
(資本の部)		
資本金	8,930	8,930
資本剰余金	8,112	8,098
利益剰余金	12,454	12,483
その他有価証券評価差額金	195	102
自己株式	△ 347	△ 191
資本合計	29,345	29,424
負債、少数株主持分及び資本合計	85,131	91,878

■負債合計

短期借入金が700百万円、設備未払金が608百万円それぞれ減少したことなどにより、流動負債は1,617百万円減少しました。また、資金調達が多様化によって長期借入金が5,783百万円減少したことなどにより、固定負債は5,138百万円減少しました。この結果、負債合計は前期末と比べて6,756百万円減少しました。

■少数株主持分

前期よりシダックスアイ(株)を子会社化したことにより、少数株主持分が発生しています。

■資本合計

資本合計は前期末と比べて78百万円減少しました。

◎連結損益計算書

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
売上高	157,950	155,264
売上原価	137,103	136,979
売上総利益	20,847	18,284
販売費及び一般管理費	14,487	14,920
営業利益	6,359	3,364
営業外収益	417	316
営業外費用	755	839
経常利益	6,022	2,840
特別利益	250	382
特別損失	2,988	1,071
税金等調整前当期純利益	3,283	2,151
法人税、住民税及び事業税	1,873	1,808
法人税等調整額	815	267
少数株主損失	13	52
当期純利益	607	127

◎連結剰余金計算書

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
資本剰余金期首残高	8,098	7,847
自己株式処分差益	13	250
資本剰余金期末残高	8,112	8,098
利益剰余金期首残高	12,483	12,934
利益剰余金増加高	607	127
当期純利益	607	127
利益剰余金減少高	636	578
配当金	532	476
役員賞与	104	101
(うち監査役分)	(3)	(3)
利益剰余金期末残高	12,454	12,483

■売上高

当期は157,950百万円となり、前期と比べて2,686百万円増加(前期比1.7%増)しました。主な内訳は、エスロジックス事業5,203百万円(前期比46.0%減)、コントラクトフードサービス事業39,630百万円(前期比0.4%減)、メディカルフードサービス事業39,086百万円(前期比6.0%増)、レストランカラオケ事業61,684百万円(前期比1.4%減)、コンビニエンス中食事業11,815百万円(前期下期連結)、その他事業1,030百万円(前期比12.5%増)となっています。

◎連結キャッシュ・フロー計算書

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,637	4,412
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,033	△ 9,657
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,970	2,915
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	196
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	6,700	△ 2,133
現金及び現金同等物の期首残高	12,503	14,636
現金及び現金同等物の期末残高	19,203	12,503

■営業活動によるキャッシュ・フロー

当期に特別損失として計上した減損損失2,637百万円を除いて比べた税金等調整前当期純利益が3,770百万円増加、売上債権の増減が549百万円増加、未払金減少が795百万円減少したことなどの理由により、営業活動から得られた資金は前期に比べて4,224百万円増加しました。

■投資活動によるキャッシュ・フロー

レストランカラオケ事業の出店抑制による有形固定資産および敷金、保証金等の支出が8,755百万円減少、有形固定資産の売却による収入が6,250百万円増加したことなどの理由により、投資活動に使用された資金は前期に比べて14,691百万円減少しました。

■財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金による収入が13,617百万円減少、借入金返済による支出が4,958百万円減少および社債発行による収入が2,493百万円減少したなどの理由により、財務活動から得られる資金は前期に比べて9,886百万円減少しました。

■利益

当期は前期と比べて、グループの食材購買事業において、標準メニューの作成システムとメニューに連動する統一食材の調達仕組が進捗したこと、食材原価の低減が一段と可能となり売上総利益は2,562百万円増加(前期比14.0%増)また、各事業子会社に分散していた販売促進企画などの共通機能を集約し、専門ノウハウの相互活用による生産性の向上および運営能力の向上を果たし、間接費の削減を実現したことにより販売費及び一般管理費が432百万円減少(前期比2.9%減)した結果、営業利益及び経常利益はそれぞれ2,995百万円(前期比89.0%増)および3,181百万円(前期比112.0%増)増加しました。これらの理由により、当期純利益は480百万円増加しました。

■ 単体財務諸表

◎貸借対照表

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
(資産の部)		
流動資産	28,393	22,498
固定資産	36,210	38,661
有形固定資産	1,784	1,888
無形固定資産	762	884
投資その他の資産	33,662	35,888
資産合計	64,603	61,160
(負債の部)		
流動負債	10,466	7,964
固定負債	17,720	17,680
負債合計	28,186	25,644
(資本の部)		
資本金	8,930	8,930
資本剰余金	15,429	15,429
利益剰余金	12,401	11,317
当期末処分利益	12,401	11,317
(うち当期純利益)	(1,703)	(840)
その他有価証券評価差額金	3	0
自己株式	△ 347	△ 162
資本合計	36,417	35,515
負債資本合計	64,603	61,160

◎損益計算書

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
営業収入	6,899	7,884
役務提供等収入	4,775	5,345
不動産賃貸収入	618	524
配当収入	1,504	2,014
営業費用	4,794	5,284
不動産賃貸原価	530	393
販売費及び一般管理費	4,264	4,890
営業利益	2,104	2,599
営業外収益	628	525
営業外費用	413	367
経常利益	2,319	2,757
特別利益	60	65
特別損失	51	1,390
税引前当期純利益	2,329	1,432
法人税、住民税及び事業税	△ 159	236
法人税等調整額	785	355
当期純利益	1,703	840
前期繰越利益	10,697	10,477
当期末処分利益	12,401	11,317

◎利益処分

	単位：百万円	
	当期 平成18年3月期	前期 平成17年3月期
当期末処分利益	12,401	11,317
利益処分額	616	619
配当金	529	532
役員賞与	87	87
(うち監査役賞与金)	(1)	(1)
次期繰越利益	11,784	10,697

会社の概要 (平成18年3月31日現在)

商号	シダックス株式会社
英文商号	SHIDAX CORPORATION
設立年月日	平成13年4月2日
資本金	8,930百万円
従業員数	3,698名
本店所在地	〒182-0021 東京都調布市調布ヶ丘三丁目6番地3
本社事務所	〒150-0041 東京都渋谷区神南一丁目12番13号 渋谷シダックスビル3F

役員 (平成18年3月31日現在)

代表取締役会長	志太 勤	取締役	荻野 裕
代表取締役社長	志太勤一	取締役	鮫島文雄
代表取締役副社長	若松正雄	取締役	小林正雄
代表取締役副社長	志太正次郎	取締役	大原登志
専務取締役	遠山秀徳	監査役 (常勤)	鈴木興一
常務取締役	藤田一郎	監査役	井戸 昇
常務取締役	渡邊一民	監査役	榎 国男
取締役	小柴宏美	監査役	重泉良徳
取締役	大津 宏		

(注) 監査役重泉良徳氏は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第18条第1項に定める社外監査役であります。

株式の状況 (平成18年3月31日現在)

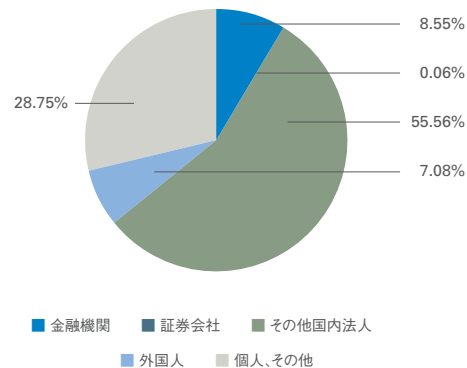
会社が発行する株式の総数	1,400,000株
発行済株式の総数	357,214.62株
株主数	15,832名

大株主 (上位10位)

株主名	所有株数 (株)	出資比率 (%)
株式会社志太	67,762.66	18.96
エスアンドエイ株式会社	54,001.46	15.11
株式会社志太起業研究所	35,403.26	9.91
株式会社シダ・セーフティ・サービス	33,778.00	9.45
志太 勤一	20,833.56	5.83
志太 勤	18,719.32	5.24
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	12,861.00	3.60
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	9,037.00	2.52
志太 正次郎	6,049.26	1.69
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	5,307.00	1.48

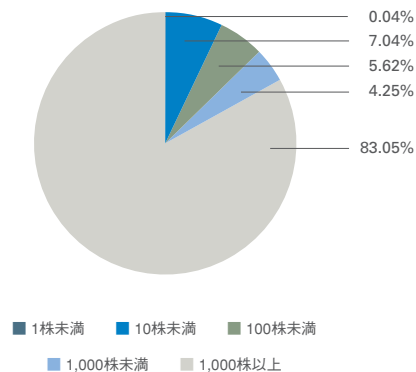
所有者別株式分布

(平成18年3月31日現在)



所有株数別株式分布

(平成18年3月31日現在)



株主優待のご案内

3月31日、9月30日現在の株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主様に対し、それぞれ、以下の基準により、カラオケ店舗でご利用頂けるレストランカラオケ優待券を贈呈いたします。

■ 贈呈基準	1株以上5株未満→ ルーム料金1,050円(税込)割引券15枚 5株以上 → ルーム料金1,050円(税込)割引券45枚
■ 利用方法	全国のレストランカラオケシダックスにて、ルーム料金の支払いとして、現金との併用又は、優待券のみでご利用いただけます。なお、5名様以下のご利用時は2枚まで、6名様以上のご利用時は利用枚数に制限はありません。ウィークデイバック、ウィークエンドバック等のご選択の場合、お会計総額(税込)の5%を割引とさせていただきます。(1組様1枚限り)
■ 有効期限	3月31日現在株主様への優待券 →発行された翌年の6月30日まで 9月30日現在株主様への優待券 →発行された翌年の12月31日まで

株主メモ

決算日	3月31日
定時株主総会	6月
配当株主確定日	3月31日 (ただし、中間配当を行う場合は、9月30日)
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
(連絡先)	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 フリーダイヤル 0120-78-2031
各種手続き用紙のご請求先	フリーダイヤル 0120-87-2031
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	東京都において発行される日本経済新聞
貸借対照表および損益計算書掲載のホームページアドレス	http://www.shidax.co.jp/ir/koukoku